



昭和43年に婦人ホームで行った講座をきっかけに、その後も集まって続けて行こうと、昭和46年に発足した歴史あるサークルです。現在は講師と40代から70代までの会員13人で和気あいあいとした雰囲気の中で活動しています。

活動内容は、和裁の技術を活かして、着物を作ったり、古くなった

**日本の美を作りだす 伝統ある和裁の技法 あすなる和裁**

着物の仕立て直しや、カーテンを帯に作り変えたりとさまざまな物を作製しています。

和裁の歴史は古く、平安時代ころからあり、着物を作る技法として広く知られています。作製する着物は、和裁ならではの針運び、着物の柄位置などを決める柄合わせなどにより、美しく出来上がるそうです。その難しさは、「すべて手作業で行われ、特に短い針で長い距離を曲がらずに縫い上げる」といっては話してくれました。

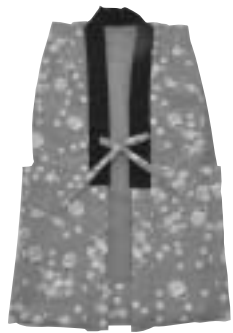
和裁の魅力は、やはり皆さん着物や和柄、そして、自分で着物を着ることも好きとのこと。日本の美である着物を伝統ある和裁の技法で作る喜び、好みの品を自分で作り出すこと、につぎると話します。また、和裁を通して、好きな着物の反物や帯、その色彩や柄

あすなる和裁

代表 / 松岡 雅子さん  
☎67-3048  
活動日 / 第1～4木曜日  
9時～12時  
活動場所 / 女性センター

作品介绍

～このサークルで作成しました～



袖なしはんてん



三浦 文子さん

孫にあげようと約1か月かけて作りました。渡したときの喜ぶ顔を想像しながら、一針一針縫い上げました。



吉富 恵美子さん

孫の入学式で娘が着るために作りました。自分の作った着物を娘が着る姿を見て、とても嬉しかったです。



訪問着

市民のひろば

ぼくのわたしの



とまこまいの子どもたちの夢

聞いてみました!

森江君の将来の夢は、釣具メーカーが開発した道具を実際に海でテストする釣りのプロ、フィールドテスターになることです。そのきっかけは小学生のときから釣りが好きで、テレビなどで活躍するその仕事を知り釣りを続けられる仕事をしたいと思つたそうです。

今は天候や潮の状況を調べ、こだわったエサや釣りポイントの研究に励んでいる森江君。今年では全長50cmもあるカレイや鮭を何匹も釣り上げた」と笑顔を見せます。

今後は「どんな魚でも釣れるように、海外などいろいろな環境で釣りをし、釣りのプロを目指したい」と目を輝かせて話します。

「好きな釣りが仕事になると最高!」と話す森江君。近い将来、テレビなどで活躍する姿が楽しみです。



森江 勇作くん (青翔中学校3年)

フィールドテスターになり好きな釣りを続けていたい

小・中学生の皆さんの「夢」を200字程度に書いて、写真を添えて送ってください

今月の表紙



～秋の味覚「焼き芋」を満喫～  
9月29日(火)に金太郎の池レストハウスで開催された「焼き芋を満喫しよう」の一場面。1歳5カ月～就学前の子どもと親40組が参加し、あつあつの焼き芋などを味わい、秋の訪れを感じていました。

タウンスケッチ

～まちの出来事～



ふれあいから動物を愛する心を動物愛護フェスティバルが開催



たくさん動物との触れ合いを通し、命の大切さを学ぶ「胆振動物愛護フェスティバル」が10月4日(日)にノーザンホースパークで開催。

会場では、イヌ・ネコの新しい飼い主探しや子牛とのふれあい・聴診体験、ミニ動物園などさまざまなコーナーが開設。また、乗馬体験コーナーでは多くの子どもたちが乗馬を楽しみました。当日は1千200人の市民が訪れ、動物と一緒に秋の一日を楽しみました。



スポーツの秋に力走するとまこまいマラソン大会

秋のスポーツイベントとして恒例の、第26回とまこまいマラソン大会が10月11日(日)に緑ヶ丘公園と道道苦小牧環状線を会場に開催。当日はファミリー3km、3km、5km、ハーフなどの競技が行われ、参加した約2千人の市民は、時折降る雨をものめせず、力強く駆け抜けていきました。



サークル活動の学び喜びを伝えたい第16回女性センターフェスティバル

10月3日(土)、4日(日)に女性センターサークル44団体の日ごころの学びの成果を発表する「女性センターフェスティバル」が市民活動センターで開催。会場には多くの市民が訪れ、約700点の作品展示や各種ステージ発表などを鑑賞し、サークル活動への熱き心意気を感じる催しを楽しみました。